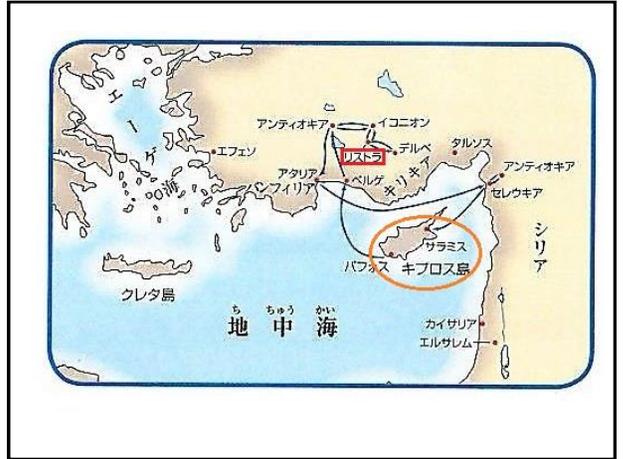


「奇跡(しるし)と 勘違(かんちが)い」

使徒の働き 14章8-18節

1



2

さてリステラで、足の不自由な人が座っていた。彼は生まれつき足が動かず、これまで一度も歩いたことがなかった。彼はパウロの話すことに耳を傾けていた。パウロは彼をじっと見つめ、癒やされるにふさわしい信仰があるのを見て、大声で「自分の足で、まっすぐに立ちなさい」と言った。すると彼は飛び上がり、歩き出した。群衆はパウロが行ったことを見て声を張り上げ、リカオニア語で「神々が人間の姿をとって、私たちのところにお下りになった」と言った。そして、バルナバをゼウスと呼び、パウロがおもに話す人だったことから、パウロをヘルメスと呼んだ。すると、町の入り口にあるゼウス神殿の祭司が、雄牛数頭と花輪を門のところを持って来て、群衆と一緒にいけにえを献げようとした。使徒14:8-13

3

これを聞いた使徒たち、バルナバとパウロは、衣を裂いて群衆の中に飛び込んで行き、叫んだ。「皆さん、どうしてこんなことをするのですか。私たちもあなたがたと同じ人間です。そして、あなたがたがこのような空しいことから離れて、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えているのです。神は過ぎ去った時代には、あらゆる国の人々がそれぞれ自分の道を歩むままにしておられました。それでも、ご自分を証ししないでおられたのではありません。あなたがたに天からの雨と実りの季節を与え、食物と喜びでああなたがたの心を満たすなど、恵みを施しておられたのです。」こう言って二人は、群衆が自分たちにいけにえを献げるのを、かろうじてやめさせた。使徒14:14-18

4

奇跡(しるし)の意味と目的

- 奇跡がすごい？(奇跡そのものではない)
- 神は、創造の目的を忘れていない。あきらめていない
- 人間といっしょに生きる関係を回復させようとしておられる。神の国をいっしょに完成させようとしてくださっている。
- 神の目的は人間の状況を変えるだけでなく、人間(の心)を変えようとしておられる。
- 人間社会において神の国が実現すること。「御心が天で行われるように地でも行われる」こと。
- 状況は変わったが、変わっていないのは人間の心

5

「いやされる(救われる)信仰」

- 「救わない信仰」という教えもある
- 私の兄弟たち、だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。ヤコブ 2:14
- 同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。ヤコブ 2:17
- 信仰とは生きた神との生きた関係のこと。
- あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。ヤコブ 2:19

6

「いやされる(救われる)信仰」

- キリスト・イエスにあって大事なものは、割礼を受ける受けないではなく、**愛によって働く信仰**なのです。ガラテヤ5:6
- 自分中心の信仰というのはいけません。
- **この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。**そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。ローマ12:2
- 「信仰」や「福音」を自分の都合に合うように変えてしまってもいけません。

7

「いやされる(救われる)信仰」

- いやされる信仰を持っていてもいやされないこともある
- 奇跡的に救われなかった人々にも、(奇跡を与えられなかった人にも)神のあわれみ、愛は与えられていた。
- バプテスマのヨハネ、殉教したステパノやヤコブ、パウロの「肉のとげ」、テモテの弱い体など。

8

「いやされる(救われる)信仰」

- 「左手の不自由な少年」 水野源三(1937-84)
- 野球はできないが サッカーも 鉄棒も 跳び箱もできると話す 左手の不自由な少年よ 人生の目的である キリストのみもとに 導くために 神様が 与えてくださった 不自由な左手を 大切にせよ
- 悲しみよ悲しみよ 本当にありがとう お前が来なかったら つよくなかったら 私は今どうなっていたか 悲しみよ悲しみよ お前が私を この世にはない大きな喜びが かわらない平安がある 主イエス様のみもとにつれて来てくれたのだ

9

「いやされる(救われる)信仰」

- パウロの言葉を聞いていた姿勢。ローマ10:17
- みことばに基づかない信仰は自分勝手な、自分中心な、気休めの信仰になってしまう。

10

人間の想像による神々

- 神々にされたバルナバとパウロ
- 科学の時代には、人々は神々を捨て、真(まこと)の神まで捨てた。
- 神から偶像、偶像から偶像へ(お金、自分)
- 日本の場合、天皇が神、日本が神の国、次にお金、仕事、会社、次に自分、自分らしさ、神の国より自分の国=自国
- エコよりエゴ(プライド、高ぶり、傲慢)

11

人間の想像による神々

- プライドがどれだけ恐ろしいものか。高ぶり、傲慢がどれだけ恐ろしいものか。私たちは今見ている。プーチンさんのプライド。
- 我が強い人がいると周りが苦勞する。その人が力を持っているともっと苦勞する。
- 人間が作った神々は人間に似ている。人間はまことの神に似るように創造された。
- 神の似姿=人間らしさ。神を神としなれば、人間は本当の意味で人間に(らしく)なれない。

12

神の証し

神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られはつきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。彼らは神を知っているが、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました。そこで神は、彼らとその心の欲望のままに汚れに引き渡されました。(放蕩息子)そのため、彼らは互いに自分たちのからだを辱めています。彼らは神の真理を偽りと取り替え、造り主の代わりに、造られた物を選び、これに仕えました。造り主こそ、とこしえにほめたえられる方です。アーメン。ローマ1:19-25

13

神の証し

「皆さん、どうしてこんなことをするのですか。私たちもあなたがたと同じ人間です。そして、あなたがたがこのような空しいことから離れて、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えているのです。神は、過ぎ去った時代には、あらゆる国の人々がそれぞれ自分の道を歩むままにしておられました。それでも、ご自分を証ししないでおられたのではありません。あなたがたに天からの雨と実りの季節を与え、食物と喜びであなたがたの心を満たすなど、恵みを施しておられたのです。」

使徒14:15-17

14

創造者である生ける神に立ち返る

- 神ご自身の証し、啓示、神の2冊の本 自然と聖書
- 雨や実り、食物と喜びなどの恵み。神を知る 赦しと赦しの中で生きること、神と一緒に生きること
- 啓示がなければ神を知ることができない。
- 自分の好きな信仰、自分に合った信仰は人を救わない、自由にしない
- イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」ヨハネ8:31-32

15

創造者である生ける神に立ち返る

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

マタイ11:28-30

16

創造者である生ける神に立ち返る

- 人間は、創造者である神の傑作。
- 人間は神を知ることによってのみ自分を知ることが出来る。神を神とするときに、人は人になれる。
- 人間は神によって生かされている。
- いやされる信仰を持って、生きた関係の中を生きる。(生かされる信仰)
- むなしいものに人生をささげるのではなく、神にささげる。神と一緒に生きるのが永遠の命

17